

片側顔面痙攣 三叉神経痛

の外科治療





へんそくがんめんけいれん 片側顔面痙攣

片側顔面痙攣は顔の片方の筋肉が自分の意思とは無関係にピクピクと動く病気です。初期の段階では目の周りのぴくつきから始まり、進行に伴い徐々に頬、口の周りに症状が広がります。更に進行すると目は閉じ続け、顔はつっぱったままになります。これらの症状は特にストレスや緊張などで誘発され、人と話をする時などにも多く出現します。

一般的にはこの病気はほとんど知られておらず、医療従事者の中でも認知度が低いため、病院を受診しても正しく診断されずに長期間お困りになる方も少なくありません。

原因はほとんどの場合、顔の筋肉の動きを司る顔面神経という神経が、脳から分かれて出てくる場所で血管により圧迫されることで起こります。圧迫された顔面神経は興奮状態となり、誤った電気信号を顔の筋肉に送り続けるため、顔の筋肉が勝手に動いてしまいます。

治療としては、ボトックスという筋肉を麻痺させる薬を直接顔に注射させる方法がありますが、薬の効果が切れれば症状は再現します。内服薬も有効なものはありません。根本的に治療するには手術で顔面神経への血管による圧迫を解除する必要があります。

この手術は微小血管減圧術と呼ばれ、手術法を開発した先生の名前にちなみ、ジャネッタの手術とも呼ばれます（図 1 A, B, C）。手術には高度な技術と熟練を必要とします。

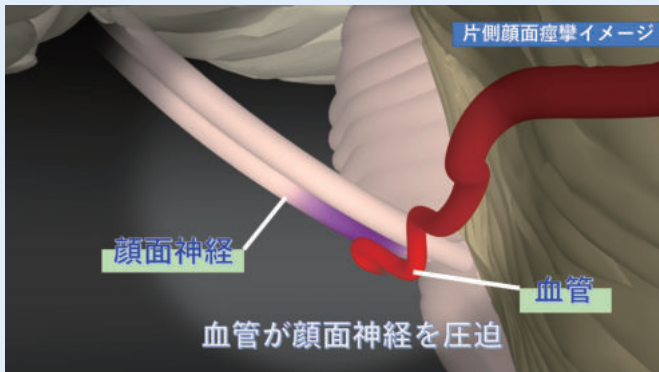


図 1 A

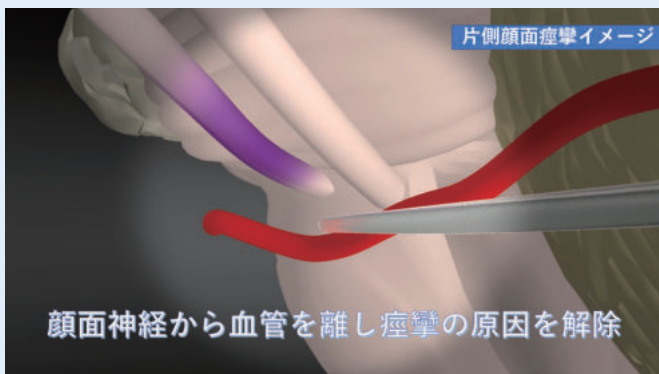


図 1 B



図 1 C



さん さ しんけいつう 三叉神経痛

三叉神経痛は顔の片側の下あご、頬に激しい痛みが出現する病気です。強い痛みが瞬間的に起こり、顔を触る、歯を磨く、食べ物を噛むなどの動作で誘発されます。病気の初期には時々痛む程度ですが、進行にするにつれ痛みの程度は強くなり、頻度も多くなってきます。虫歯の痛みにも似ているため、歯科を受診して三叉神経痛とわかることも多くあります。原因は多くの場合、顔の感覚を司る三叉神経が、脳から分かれて出てくる場所で血管に圧迫されることで起こります。圧迫された三叉神経は興奮状態となり、誤った電気信号を脳に送ることで、実際には顔には何も起きていないのに、脳は顔に激しい痛みが起きていると感じてしまいます。

三叉神経痛にはテグレトールという特効薬がありますが、強い薬なので、ふらつき、眠気などの副作用があり、時にはひどいアレルギーを起こしてしまうこともあります。また、長期間使用していると効き目が弱くなり、内服量が次第に増えてしまいます。根本的治療には微小血管減圧術（ジャネットタの手術）が必要となります（図2 A, B, C）。

三叉神経痛と同類の病気として舌咽神経痛（ぜついつんしんけいつう）があります。ものを飲み込むときにのどの奥や耳の奥に激しい痛みが出現します。舌咽神経痛も舌咽神経が血管に圧迫されることが原因で、治療も三叉神経痛に準じて行います。

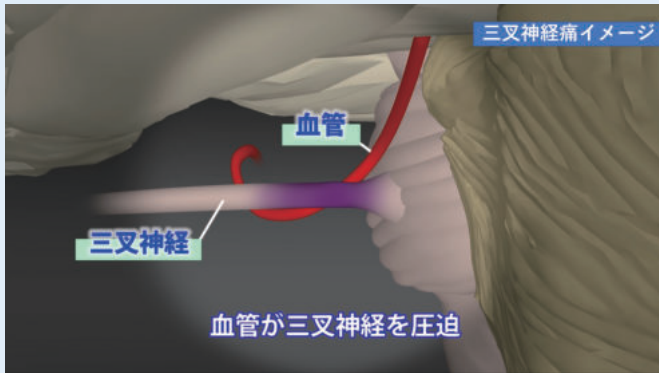


図 2A

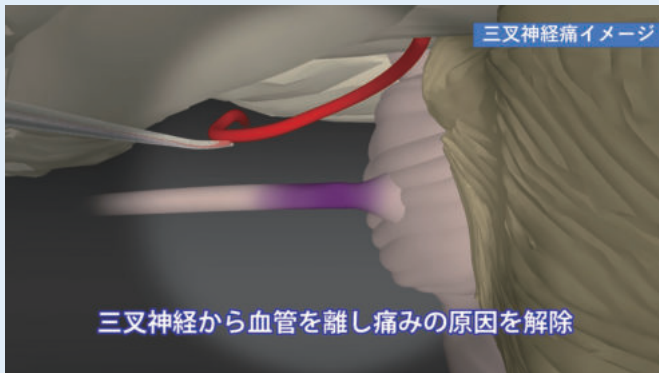


図 2B

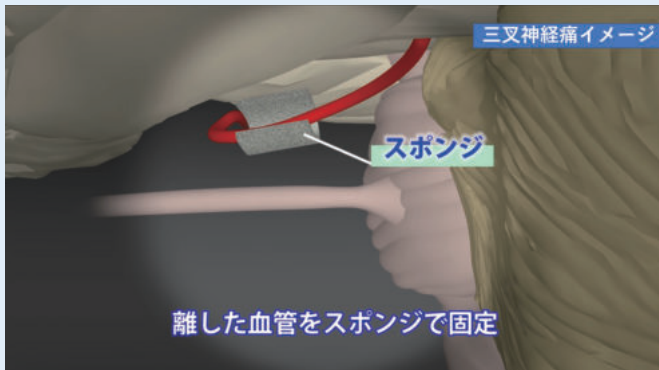


図 2C

画像診断

MRIでの画像診断が必要です。脳を非常に薄いスライスにして見る Constructive interference in steady-state (CISS) という撮影法が有用で、神経と血管の細部構造を描出します (図3A)。さらに当院ではMRIとCTの画像を特殊な画像処理ソフトで統合し、3D画像として描出することが可能であり、より正確な診断と手術成績の向上に役立っています (図3B)。

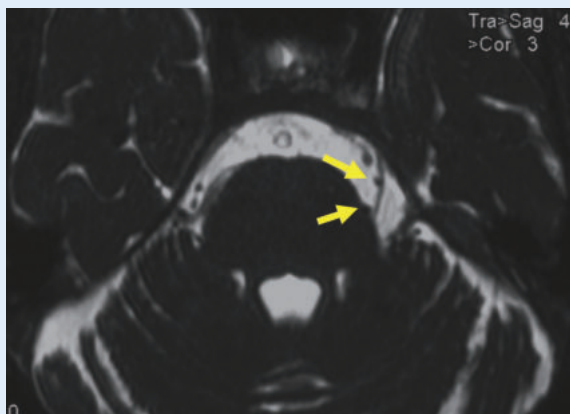


図3A



図3B

手術治療

微小血管減圧術（ジャネッタの手術）は全身麻酔で行います。耳の後ろの頭蓋骨に穴をあけ、顕微鏡で内部を観察して手術を行います。神経（顔面神経もしくは三叉神経）と神経を圧迫している血管は、重要な構造物が集まる脳の深部に位置しており、小脳と呼ばれる脳の後ろに隠れています。小脳や周囲の重要構造物を損傷せず神経への血管による圧迫を解除するには高度な技術が必要となります。

また、当院では微小血管減圧術に内視鏡技術も取り入れております。内視鏡は直径4mmの小さなカメラで、内視鏡を脳の深部まで入れることで、隠れている部位も様々な角度から観察することができ、病状をより正確に把握することができます（図4A, B）。これにより手術の安全性、成功率の向上や低侵襲性（手術による体の負担を軽減すること）に役立っています。

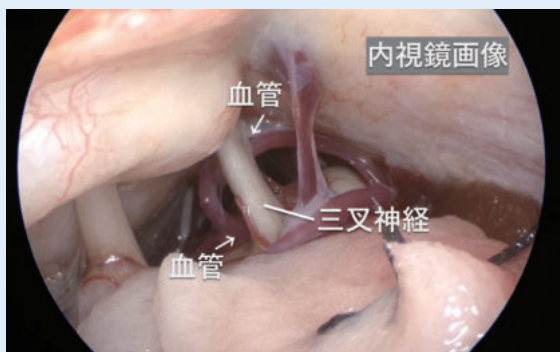


図4A

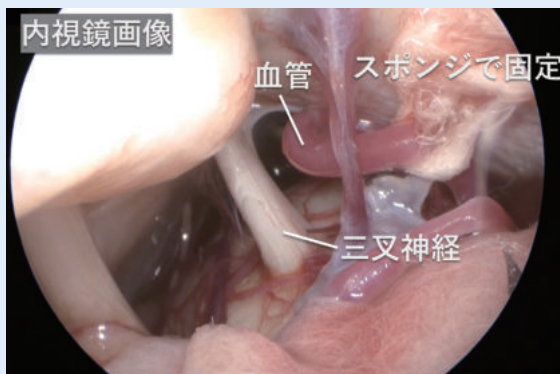


図4B

緊急のご相談窓口

藤田医科大学 ばんだね病院

愛知県名古屋市中川区尾頭橋3-6-10

TEL : 052-321-8171 加藤庸子携帯 : 090-3258-5646